

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 Tel:0120-232-7111(通話料無料)
上 場 証 券 取 引 所	ジャスダック証券取引所 【お知らせ】当社株式は2009年4月18日よりジャスダック証券取引所単独上場となりました。
公 告 の 方 法	電子公告により行う。 公告掲載URL http://www.lachd.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

ご回答いただいた方の中から抽選で
薄謝(図書カード 500 円)を進呈させていただきます



- ※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp/>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。
●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」TEL：03-5777-3900(平日 10：00～17：30) MAIL：info@e-kabunushi.com

単元未満株式の買増・買取請求について

単元未満株式(当社の場合、100株に満たない株式)を所有される株主様には、単元未満株式の買増・買取の2つの制度がございます。株主様のご所有状況に合わせてご利用ください。

●買増制度

お手元の単元未満株式と合わせて1単元(100株)となるように、当社に対して単元未満株式の売り渡しを請求できる制度。

●買取制度

お手元の単元未満株式を、当社に対して時価でご売却いただける制度。

具体的なお手続きにつきましては、証券会社等に口座を開設されている株主様は、お取引の証券会社等にお問合せください。

また、特別口座に登録されている株主様は、株主名簿管理人連絡先へお問合せください。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

- アンケート実施期間は、本報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 3857

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、excite のサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより URL 自動返信 kabu@wjm.jp へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用の URL が直ちに自動返信されます。

ラックホールディングス 株式会社

〒105-7111 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター11F
<http://www.lachd.co.jp/>
(お問合せ) 経営戦略室広報部 Tel：03-5537-1406 E-mail：ir@lachd.co.jp



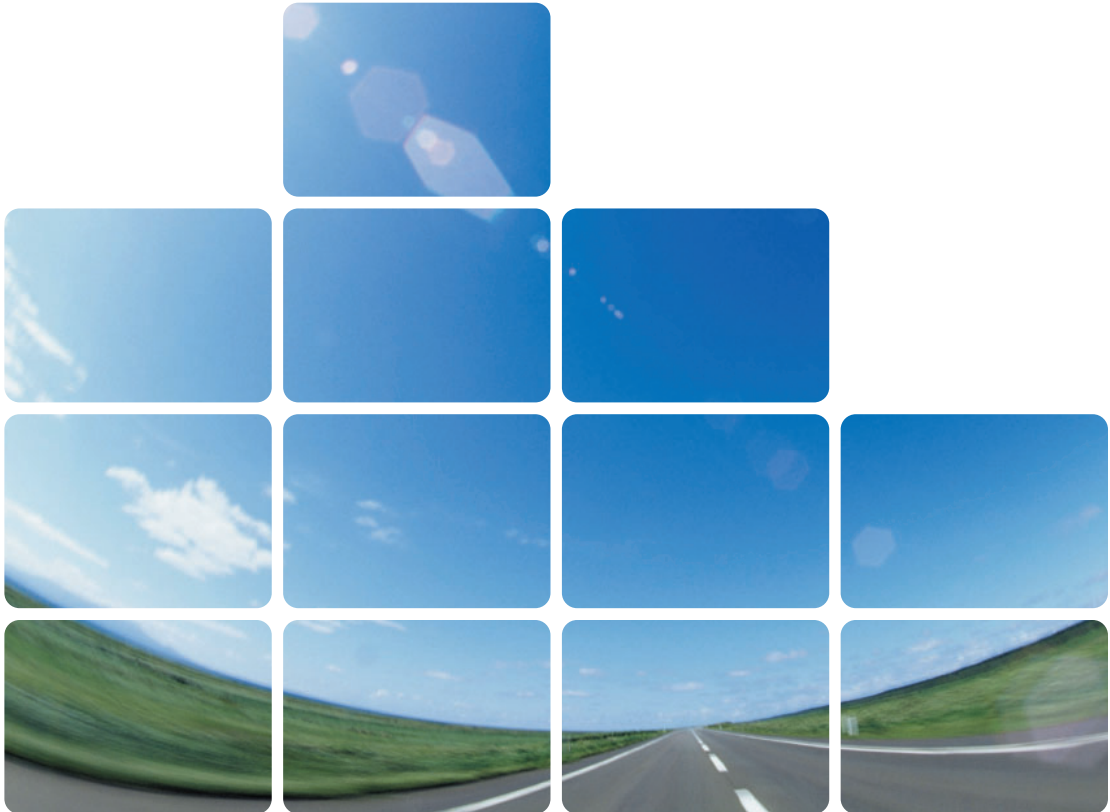
Business Report Vol.4



Business Report

第3期 中間報告書

2009.4.1～2009.9.30



ラックホールディングス 株式会社

証券コード：3857

企業理念

進化し続けることで成長し、持続可能性の高い経営により、
社会にとってなくてはならない存在を目指します。



経営ビジョン

高度な情報技術によるサービスを提供する
社会インフラを支える企業

コーポレートガバナンスの充実とコンプライアンス重視の経営
お客様中心の視点でより価値のあるソリューションを提供

高度な情報技術による先進性の追求

社員がいそいそと楽しく働く企業

健全な成長を持続する企業

国際企業への飛躍

Top Message トップメッセージ

将来の飛躍に向けて、グループ総合力の結集と 強固な経営基盤構築を進めます



代表取締役 会長 兼 社長

三 柴 元

株主ならびに投資家の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ラックホールディングス株式会社の第3期中間報告書をお送りするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当上半期における当社グループの属する情報サービス業界におきましては、企業のIT投資意欲は一部に改善が見られるものの、先行き不透明感から、残念ながら依然として厳しい事業環境となりました。

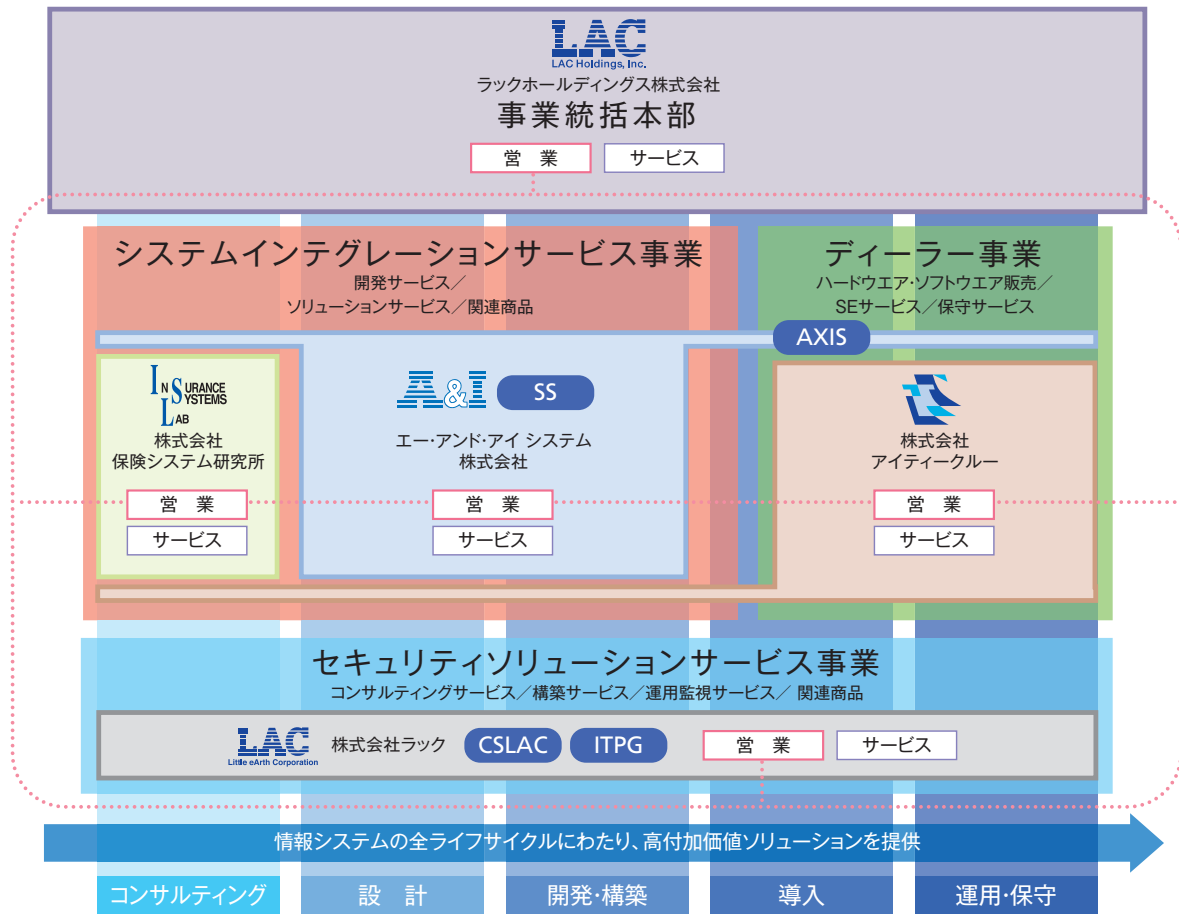
このような状況において当社グループは、業務変革室の主導のもと、グループ全体にわたる業務の合理化の推進や、グループ事業会社各社の営業力強化に向け、事業統括本部を中心としたグループ総合力を生かす取組み、また、業績連動型年俸制度の全社員適用による経営目標の共有化などを推進してまいりました。

さらに、より一層のコスト低減効果やグループ会社間におけるシナジー効果を得るために、来年6月までに都内に分散している当社および当社グループ各社の集約に伴う移転を決定したほか、財務基盤の拡充と長期にわたる安定的かつ機動的な資金の確保のために優先株式の発行を決議するなど、当社企業理念にある「進化し続けることで成長し、持続可能性の高い経営」の実現に向けた経営施策を積極的に推進しております。

下半期におきましても依然として厳しい事業環境が予想されますが、これまで以上にグループ一丸となって日々の業務に精励し、企業価値の向上に努めてまいります。

皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

グループ全体として事業領域が拡大しポートフォリオが強化され、より広範囲なビジネス提案が可能になりました。



SS：株式会社ソフトウェアサービス、AXIS：株式会社アクシス、CSLAC：Cyber Security LAC Co.,Ltd.、ITPG：株式会社ITプロフェッショナル・グループ

ラックホールディングスグループでは、ビジョンの達成に向けグループ事業施策を推進してまいります。



第2四半期を振り返って

当上半期の業績は、売上高はディーラー事業が寄与し146億65百万円(前年同四半期比32.9%増)になりましたが、お客様のIT投資の抑制などの影響から稼働率が低下するとともに、お客様からの価格低減要請もあり、売上総利益率は3.6ポイント低下しました。

販売費及び一般管理費はのれん償却額の増加や業容拡大に伴い増加しましたが、グループ全体の経費削減に努

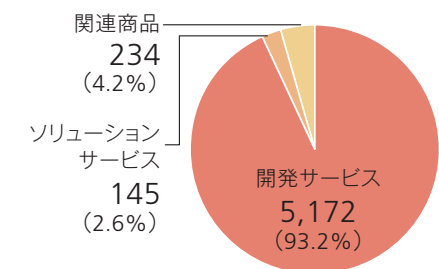
め、利益改善を図り、営業損失は94百万円(前年同四半期は営業損失78百万円)となりました。

ディーラー事業継承に伴う借入金の支払利息の増加や、下期における計画経費の前倒し発生により、経常損失は2億49百万円(前年同四半期は経常損失1億30百万円)、四半期純損失は4億58百万円(前年同四半期は四半期純損失2億43百万円)となりました。

SIS事業 (システムインテグレーションサービス事業)

売上高は55億51百万円(前年同四半期比15.1%減)、営業利益は、受注が大幅に減少したものの、プロジェクト品質管理の強化や内製化の推進により外注費の抑制と稼働率の向上に注力したことにより、5億33百万円(同6.9%減)となりました。

サービス別売上高 (単位:百万円)



● 開発サービス

証券業ならびに人材派遣業向け案件が大幅に減少したうえに、保険業向けのコンサルティングおよび開発案件の減少などにより、売上高は51億72百万円(前年同四半期比14.3%減)となりました。

● ソリューションサービス

自治体向け案件の新規受注がありましたが、人材派遣業向け案件の一部解約があり、売上高は1億45百万円(同29.0%減)となりました。

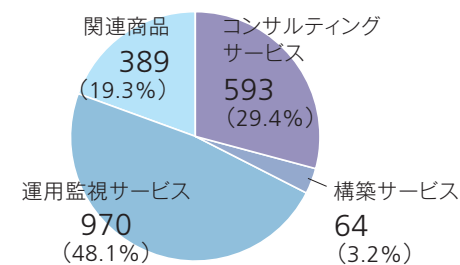
● 関連商品

開発サービス案件が減少したことにより、売上高は2億34百万円(同22.2%減)となりました。

SSS事業 (セキュリティソリューションサービス事業)

売上高は20億17百万円(前年同四半期比6.2%減)、営業利益は間接要員数の適正化や経費削減に努めたことにより、1億47百万円(同83.1%増)となりました。

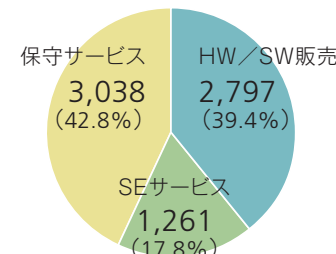
サービス別売上高 (単位:百万円)



ディーラー事業

売上高は70億96百万円(前年同四半期比203.2%増)、営業損失は65百万円(前年同四半期は営業損失1億62百万円)、のれん償却前の営業利益は1億64百万円(前年同四半期は営業損失85百万円)となりました。

サービス別売上高 (単位:百万円)



● コンサルティングサービス

常駐型案件の一部に契約解除が発生しましたが、セキュリティ教育関連サービスやセキュリティ事故の多発に伴う緊急対応サービスの受注が増加したことなどにより、売上高は5億93百万円(前年同四半期比2.2%増)となりました。

● 構築サービス

監視用機器の導入サービスの販売などにより、売上高は64百万円(同28.7%増)となりました。

● 運用監視サービス

監視サービスは既存案件の更新は順調に推移しましたが新規受注が伸び悩み、診断サービスは競争が激化し受注が減少したことなどにより、売上高は9億70百万円(同4.6%減)となりました。

● 関連商品

保守は堅調に推移しましたが、監視サービスの新規受注が低調だったため、付随する商品の販売が伸び悩み、売上高は3億89百万円(同22.6%減)となりました。

● HW/SW販売

主要なお客様である金融機関のIT投資に対する姿勢が一段と慎重となり受注が伸び悩んだことに加え、一部案件に受注遅れが発生したために、売上高は27億97百万円(前年同四半期比283.2%増)となりました。

● SEサービス

内製化の推進などで稼働率の向上に努めましたが、HW/SW販売の計画未達により導入サービスが減少したことにより、売上高は12億61百万円(同145.8%増)となりました。

● 保守サービス

HW/SW販売の計画未達により新規保守案件の受注が伸び悩んだうえ、保守更新の受注も計画をやや下回ったことにより、売上高は30億38百万円(同176.8%増)となりました。

*当事業は2008年8月より開始したため、前年同四半期の実績は2008年8月～9月の2ヶ月間の数値であり、それをもとに前年同期との増減率を算出しております。

四半期連結貸借対照表(要旨)

単位:百万円		
科 目	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前期末 2009年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	10,515	11,534
固定資産	10,597	10,643
有形固定資産	1,018	1,094
無形固定資産	5,228	5,612
投資その他の資産	4,350	3,936
資産合計	21,112	22,177

四半期財務諸表のポイント

資 産
前払費用等の増加があった一方で、売掛金の回収、のれんの償却などにより、211億12百万円(前期末比10億64百万円減)となりました。
負 債
前受収益等の増加があった一方で、買掛金、社債が減少したことなどにより、163億50百万円(同2億77百万円減)となりました。
純資産
自己株式の取得および四半期純損失による利益剰余金の減少などにより、47億62百万円(同7億86百万円減)となりました。

単位:百万円		
科 目	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前期末 2009年3月31日現在
【負債の部】		
流動負債	9,641	10,258
固定負債	6,709	6,370
負債合計	16,350	16,628
【純資産の部】		
株主資本	4,978	5,702
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	3,675	3,675
利益剰余金	600	1,138
自己株式	△ 298	△ 111
評価・換算差額等	△ 222	△ 162
少数株主持分	7	8
純資産合計	4,762	5,548
負債純資産合計	21,112	22,177

営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前四半期純損失を計上したものの、のれん償却額の増加、売上債権の回収等による運転資本の減少などにより、17億65百万円の資金流入となりました。
投資活動によるキャッシュ・フロー
来年度に予定するグループ各社の同一オフィスビルへの集約・移転のための敷金差入などにより、7億18百万円の資金流出となりました。
財務活動によるキャッシュ・フロー
社債の償還、自己株式の取得による支出などにより、9億99百万円の資金流出となりました。

四半期連結損益計算書(要旨)

単位:百万円		
科 目	当第 2 四半期累計期間 自 2009年4月 1日 至 2009年9月30日	前第 2 四半期累計期間 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日
売上高	14,665	11,033
売上原価	11,736	8,429
売上総利益	2,929	2,603
販売費及び一般管理費	3,024	2,682
営業損失(△)	△ 94	△ 78
営業外収益	34	34
営業外費用	189	86
経常損失(△)	△ 249	△ 130
特別利益	0	5
特別損失	94	12
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 343	△ 137
法人税、住民税及び事業税	59	80
法人税等調整額	58	25
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 2	0
四半期純損失(△)	△ 458	△ 243

主要経営指標

	当第 2 四半期累計期間	前期
自己資本比率(%)	22.5	25.0
時価ベースの自己資本比率(%)	25.5	27.5
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	308.4	1,170.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	17.6	7.0
EBITDA(百万円)	492	1,909

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:百万円		
科 目	当第 2 四半期累計期間 自 2009年4月 1日 至 2009年9月30日	前第 2 四半期累計期間 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,765	674
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 718	△ 8,375
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 999	8,404
現金及び現金同等物に係る 換算差額	0	△ 4
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	47	699
現金及び現金同等物の 期首残高	2,462	2,723
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,510	3,422

※自己資本比率:自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率:株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率:有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ:営業キャッシュ・フロー／利払い

EBITDA:営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

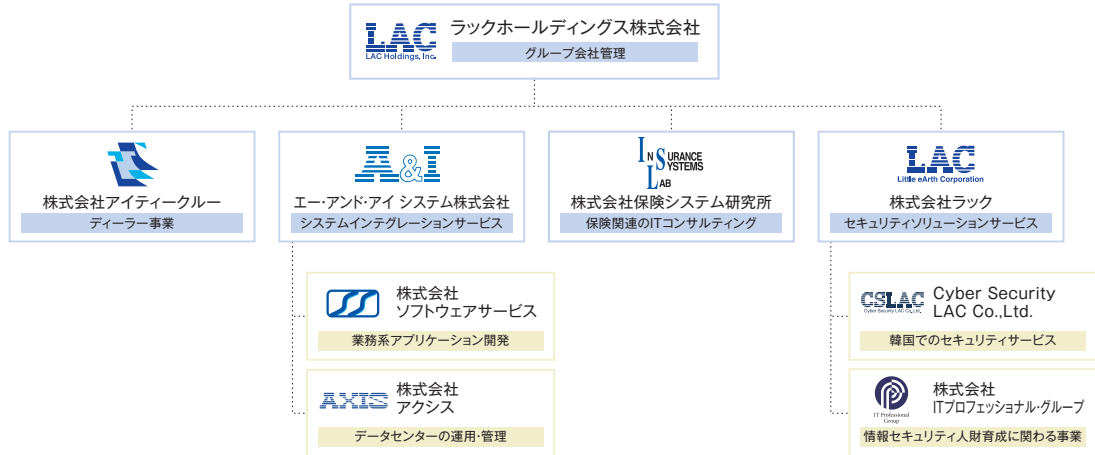
会社概要

商号	ラックホールディングス株式会社
英 文 名	LAC Holdings, Inc.
所 在 地	〒105-7111 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター 11F
	電話 (03) 5537-1400 (代表)
設 立	2007 年 10 月 1 日
資 本 金	10 億円
従 業 員 数	連結:1,638 名 個別:119 名

役員

代表取締役 会長 兼 社長	三柴 元
取締役	岡 良貴 〈経営戦略室、ITC、ISL 管掌〉
取締役	牧野 敏夫 〈社長室、A&I 管掌〉
取締役	白石 通紀 〈業務変革室、管理本部、LAC 管掌〉
社外取締役	中内 重郎
常勤監査役	畑 康徳
社外監査役	酒井 富雄
社外監査役	網野 猛美
執行役員	齋藤 理 〈LAC 代表取締役社長〉
執行役員	米田 光伸 〈ITC 代表取締役社長〉
執行役員	高梨 輝彦 〈A&I 代表取締役社長〉
執行役員	平林 雄三 〈ISL 代表取締役社長〉
執行役員	怒和 秀昭 〈事業統括本部長〉
執行役員	伊藤 信博 〈管理本部長〉

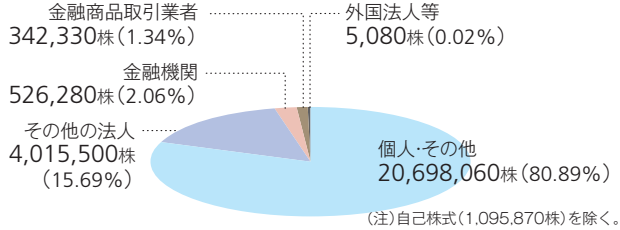
グループ全体図



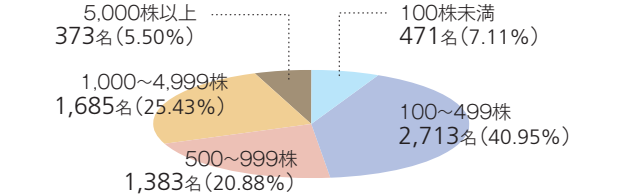
株式の状況

発行可能株式総数	100,000,000 株	
発行済株式の総数	26,683,120 株	
株 主 数	6,625 名	
大 株 主		
氏名または名称	所有株式数(株)	所有比率(%)
三柴 元	9,147,200	34.28
KDDI 株式会社	1,414,200	5.29
ラックホールディングス株式会社	1,095,870	4.10
ラックホールディングス従業員持株会	883,510	3.31
三菱商事株式会社	870,000	3.26
株式会社サウンドハウス	614,300	2.30
中島 尚彦	572,000	2.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	421,100	1.57
株式会社クレスコ	355,000	1.33
株式会社フジスタッフ	321,000	1.20

所有者別株式分布状況



所有株式数別株主分布状況



ホームページのご案内

当社のホームページでは、当社および当社グループに関する情報をご覧いただけます。また IR ページでは、財務情報や IR ライブラリーなどを掲載し、情報開示の充実に努めています。

トップページ
<http://www.lachd.co.jp/>

IR ページ
<http://www.lachd.co.jp/ir/index.html>

